

# 阿蘇のかげはし 第5号

令和4年2月発行 阿蘇市特別支援連携協議会

「阿蘇のかげはし」第5号では、①阿蘇市特別支援連携協議会とは、②悩まれていませんか、③巡回相談について、④「我が子の将来のために」の4つの記事を掲載します。なお、第1号～第4号の啓発紙も、阿蘇市内の小中学校のホームページから見る事ができます。こちら是非、御覧ください。(QRコード)→



## 1 阿蘇市特別支援連携協議会とは？

発達障がいを含むすべての障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに合った適切な指導や支援を行うため、関係機関が連携し、地域における教育的支援体制を作り上げるとともに、特別支援教育に関わる教員などの専門性の向上と関係者への理解・啓発を図る組織です。今回は、小学校での支援体制を紹介します。

### 小学校での支援体制の紹介



学校全体での支援

校内支援委員会を設置し、支援の方法を検討するなど、子どもの支援を行います。

通常学級

少人数指導や習熟別指導などによる授業。支援員による支援等。

通級(ことば・まなび)による指導

通常学級に在籍し、特性に応じた指導を週1,2時間程度行う。



交流及び共同学習

特別支援学級

種別ごとの学級(知的、自閉症・情緒、肢体不自由、難聴、弱視・病弱学級)に在籍のもと個に応じた教育を行う。

連携

様々な関係機関とネットワークを作り、子どもの成長に応じて一貫した支援をめざします。

支援学校 行政 病院 療育センター等  
保育園・幼稚園 中学校

## 2 悩まれていますか？



### <子どもの特性に関すること>

- 1 一つの遊びを長く続けられない。
- 2 体や髪に触れるのを嫌う。
- 3 物に対するこだわりが強い。
- 4 ひらがなが読めない。
- 5 のりを付ける作業が嫌いで、大人の手をとってやらせようとする。
- 6 出かける前の支度が遅い。
- 7 目を離すといなくなってしまう。

### <保護者の悩みに関すること>

- 1 子どもの育てにくさを家族が理解してくれない。
- 2 叱っても変わらないので、ストレスがたまる。
- 3 他の保護者・子どもに自分の子どもの特性や障害について、どう説明してよいかわからない。
- 4 小学校の入学について、どこに相談してよいかわからない。

### <特別支援連携協議会の関係機関連絡先>

関係機関名	住所	電話
阿蘇圏域地域療育センター	内牧182-1	32-5155
児童発達支援多機能型事業所「のびのびハウス」	黒川406	35-5211
児童発達支援多機能型事業所「あそびいえーす」	一の宮町中通2177	22-3300
こども発達サポートセンター「びーぶる」	内牧353	32-0080
阿蘇温泉病院リハビリテーション科（作業療法、言語聴覚）	内牧1153-1	32-0881
阿蘇医療センター	黒川1266	34-0311

### 3 巡回相談ってどんなもの？

巡回相談とは、特別支援教育に見識のある巡回相談員が、地域の幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校などの依頼を受けて、幼児児童生徒一人一人に応じた必要な支援内容や方法について助言したり、特別支援教育に関わる研修を保護者や教職員に向けて行ったりする取組です。

主な内容としては、次のようなものがあります。

- ① 就学や進路についての相談・情報提供
- ② 子どもの得意・不得意を把握して支援や指導へ生かすための授業参観・発達検査
- ③ 特別支援教育や子どもへの関わりについての研修

子どもたちの様子で気になることはありませんか？

忘れ物が多かったり、  
整理整頓が苦手だった  
りするけど、どう対応し  
たらいいのかな。

気になることがある  
と、すぐに話したり動  
いたりするなあ。

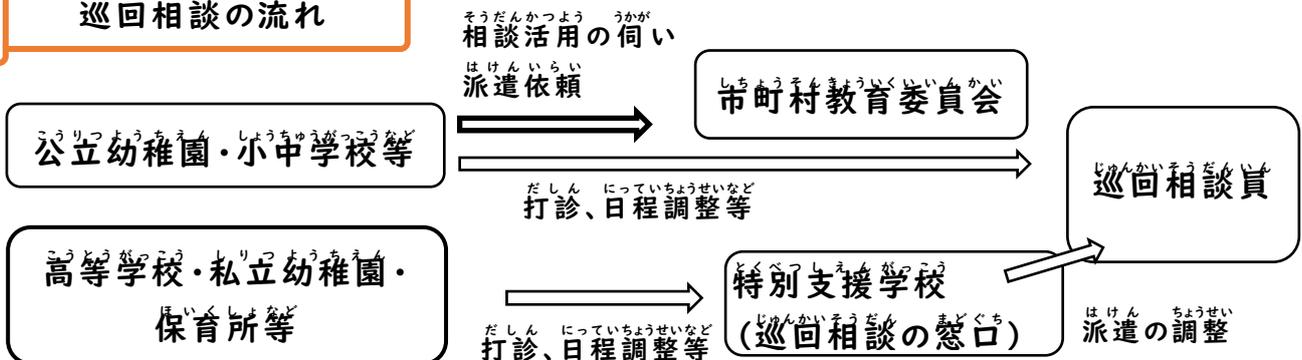
友達とトラブルになるこ  
とが増えてきたなあ。

なかなか指示が通りに  
くいけど、どう指示を出  
したらいいのだろう。



つい、子どもにきつく  
言ってしまう。叱って  
ばかりじゃいけない  
とわかっているのに。

#### 巡回相談の流れ



園及び学校は、子ども一人一人の教育的ニーズに応じたよりよい指導や支援を行うために、巡回相談を活用しています。

※ 御相談は、各学校・各園の担任または特別支援コーディネーターまで。

## 4 我が子の将来のために



# き に気づいてあげたい

日常生活や学習の中で、子どもが困っている感覚、「困り感」。

うまくできないことに悩み、困っている子どもはその「困り感」を大人に訴えてくること  
あります。そして、それが適切な支援につながり、子ども本人のその後の成長に大きな  
影響を与えていきます。

しかし、子どもからの SOS を待っているだけでいいのでしょうか。中には、困っているこ  
とをうまく言葉で表現できないことで、さらに困っている子どもがいます。どうしたらいいの  
かわからなくなってパニックに陥り、暴れたり泣いたり黙ったりしてしまうこともあります。

また、自分の困り感に気づくことができないこともあります。この場合、本人が困ってい  
ないので、周りの大人も見過ごしてしまいがちです。しかし、成長していくうちに、いつかそ  
れに気づく日が来ます。受験が近づいてから勉強がわからないことに気づいたり、  
思春期を迎えてから友達との関係づくりに悩んだりします。大きくふくらんだ状態で突然  
現れた「困り感」に押しつぶされそうになるかもしれません。

家族を中心とした大人にできることは、本人がうまく言えない「困り感」や気づけない  
「困り感」にも気づいてあげることでないでしょうか。将来の社会生活を見通して、その  
子に必要な力をつけるために、周りの大人みんな考えていきましょう。

「ぼくはこまってません・1」



「ぼくはこまってません・2」

